

「家がいいね」 第90号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2011. 11. 4

神無月を振り返って・・・

この広報紙は、普段の不調法のお詫びのつもりもあって、私一人で書き続けてきました。終止符をつけられないのも、まあ当然かもしれませんがね。10月は、毎日曜全てが行事でした。第2週は千葉の研究会で「がん患者サロン」を発表し2泊しました。帰途に新宿戸山で「暮らしの保健室」という相談支援の場を、思いがけず直に見る事ができました。16日は長女や私達夫婦の個人的な記念日でしたが、内宮領初穂川曳き・日野原重明先生講演会・神嘗祭と一日で三段跳び。23日はALS患者さんの交流会、30日は5女の中学の文化祭。月が替わってようやくホッと一息です。

人生は逆風を生きること

百歳を寿ぐ講演会でしたが、先生の提言は「逆風にも挫けず運命をデザインする」でした。風に向かってジグザグに駆け上がるヨットの操縦に例えられ、召命（ミッシヨン）を行く手に感じなさいと力説されました。

先生も順風ばかりではないと、普段の生活のご様子をTV番組で拝見しました。

実感に触れること

16日朝は幸いに前夜の雨が止み、宇治橋鳥居から湯気が上がっていました。内宮の池に、木洩れ陽も。

脳科学者の茂木健一 郎さ

んも、質感IIクオリアに関して、神宮参拝での体験を述べています。頭で考えるのではなく、この身で感じるのが大事なのだと覚悟を決め、五十鈴川に入りました。予測不可能なものを知るのが実感です。実際に足を取られ、首まで水に浸かりました。



その気配をふたたび

縁に導かれて、内宮神嘗祭の参拝に加われることになった。夜の森の中、忌火屋殿前でじっと待つ。闇が感覚を研ぐ。準備の炎を見つめ、祭主の列を待つ。正殿にお入りになった後に幽かな光が揺らぎ、雅楽を遠く聴く。ああ普段の参拝では建物だけを拝んでいたのだと思い当った。

(写真は神宮庁ホームページから引用)



ここまでの記事は、2年前の66号のもので、再びの機会で思うのは、私達は先祖が持っていた感性と本当に遠く離れてしまったなあということ。闇の中で静かに炎を見つめ、何かの気配を感じつつ、畏れの気持ちの中で自らを慎むことが、信じることにつながっていったのでしよう。

言葉も使わず自らを空しくしないと、聴くことも感じることもできない存在は確かにあります。

しかし一般参列者の中では懐中電灯の光があり、携帯電話の灯りも見え、説明する訳でもない私語が聞えます。神官の列が近づき、ようやく静寂となりました。他人のことばかり言えません。暗闇の中での参拝の行程が終わりに近づいて、ふと私も知り合いを見かけて「お疲れではないですか」と声をかけてしまっていたのですから。

気が早いようですが、年末年始のお休みは、12月28日（水）までは平常どおり

29日（木）～1月3日（火） 休診

新年1月4日（水）からは平常どおり

この間も訪問患者さんへは24時間対応です


ise home care clinic
いせ在宅医療クリニック

自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>